

琉球大学学術リポジトリ

蔬菜の主要病害虫の防ぎ方 (2)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 与那覇, 哲義, Yonaha, Tetsuyoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20707

蔬菜の主要病害虫の防ぎ方 (2)

2、ウリ類

病害

露菌病 (ベト病)

広くウリ類に発生するが、特にキュウリに多く、マクワウリ、カボチャ、スイカ、シロウリなどに発生する。下葉から発病し、初めは葉に淡黄色の小斑点ができ、拡大して淡褐色を呈し、周縁は葉脈に囲まれて多角形となる。病斑部は乾枯して破れ易く葉は上方に巻き、早期に落下して単に新芽のみが残る。

〔防除〕

- 被害葉は除去して焼却する。
- 地面に敷わらをする。
- 施肥に注意する。
- ジネブ剤 (ダイセン) の8匁式を定植期から収穫期まで使用する。

炭疽病

葉、果実に発生し、スイカに最も被害が多く、メロン、キュウリ、シロウリなどは比較的少ない。多雨の年はキュウリに大発生することがある。葉では初め灰白色、円形の斑点ができ、これは後に褐変して同心円紋となり、乾枯すれば裂開する。果実には初めその表面に黄白色、円形の凹斑ができ、後に黒褐色となり粘質物を分泌する。

〔防除〕

- 種子はウスブルン1000倍液に60分間浸漬消毒する。
- 被害葉は除去して焼却する。

ウリ類のモザイク病

本病はウイルス病でキュウリ モザイク ウイルスとカボチャ モザイク ウイルスの2種ウイルスによるものである。病徴は病原ウイルスによって異なり、また寄主植物、品種によっても多少異なる。しかし、一般的には葉は淡緑色、葉面はちりめん皺状となり、不明瞭な濃淡のぶちが入り、葉の大きさも小さい。キュウリ モザイク ウイルスは一般にキュウリ、メロン、マクワウリ、ヘチマなど寄主範囲は広く、約200種が寄主にあげられる。汁液接種も可能であるが、畑ではアブラムシの媒介で伝染される。カボチャ モザイク

ウイルスもアブラムシの媒介で伝染するが、寄主範囲が比較的狭く、その点がキュウリ モザイク ウイルスとの大きな差異である。

〔防除〕

- 越冬寄主を除き、アブラムシを駆除する。
- 排水をよくし、堆肥を十分に使用して生育を良好にすると被害を軽減することができる。

3、ナス科

病害

トマトのモザイク病

本病はタバコ モザイク ウイルス (TMV) とキュウリ モザイク ウイルス (CMV) の2種ウイルスが単独または重複感染によるもので、いずれも病徴は類似するが、伝染方法は異なる。



株全体が萎縮して小さい枝が沢山でき、葉は淡黄と濃緑部が入り乱れ、濃緑部はふくれて凹凸になり縮んで下に曲る。糸葉も生ずる。生育初期に感染したものは発育も悪く着果も殆んどなく、着果しても、その数や大きさ、質などが低下し、ときには果実の表面にも黄色斑が出来る。TMVは強力な安定したウイルスで製品タバコ中でも活性を失うことがなく、喫煙後または病植物に触れた手で移植、芽かき、支柱立などの作業すると容易に汁液伝染するが、虫媒伝染はしない。またCMVはアブラムシによって伝染する。

〔防除〕

- 病株は伝染源になるので早期に除去する。
- 移植、芽かき、支柱立の際は喫煙を厳禁し病植物に触れた場合は手を清洗する。
- アブラムシの駆除を行う。(与那覇哲義)